

農業技術 プリズム

季節の変わり目には、生後35～100日齢の子豚で大腸菌症（浮腫病）様の死亡事故が発生することがあります。大腸菌症の死亡率は10～30%と高く、抗菌剤で治療しても回復するケースが少ないため、経済的損失が大きくなります。

大腸菌症は栄養や環境条件などが変化した際に病原性大腸菌が増殖し、毒素を大量に放出して急性の死亡事故に至るものです。そこでギ酸を使って腸内の水素イオン濃度（pH）を低く維持し、死亡事故抑制の可能性を明らかにするための試験を行いました。

ギ酸は分子量が小さく、グラム陰性菌の細胞膜内に容易に入

り込めるため、病原菌の発生を抑制できる可能性があります。試験の結果、体重30kg超の子豚に、ギ酸が添加されたリキッド

子豚の死亡事故抑制

大腸菌症様にはギ酸 添加工キッド飼料を

ド飼料を給与すると、死亡事故が見られませんでした。また、ギ酸が添加されたリキッド飼料を給与した子豚は、配合飼料だ

試験中の浮腫病疑い豚の発生状況

| 区分 | 肥育前期(体重約30kg、42日間) | | | | 大腸菌症疑いから回復した豚の頭数 |
|---------|--------------------|--------|--------|--------|------------------|
| | 給与飼料 | 開始時(頭) | 死亡豚(頭) | 事故率(%) | |
| リキッド飼料区 | リキッド飼料+配合飼料(前期用) | 12 | 0 | 0 | 1 |
| 配合飼料区 | 配合飼料(前期用) | 12 | 4 | 33.3 | 3 |

けを給与した豚に比べて大腸菌症様の発生が少なく、良好な増体を維持しました。

この結果から、ギ酸が添加されたリキッド飼料を子豚に毎日、給与することで、大腸菌症様の発生を抑制あるいは発生しても早期回復に影響することが分かりました。

(県農林技術開発センター畜産研究部門 小家畜・環境研究室 専門研究員 松本信助)